

刊行に寄せて

宇都宮大学国際学部教授 田巻 松雄

本書は、2020年12月5日と6日の2日間、宇都宮市内で開催した「公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える集い」(田巻松雄研究グループ主催、宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター協力)での発言を記録したものである。この集いを企画した目的は2つあった。1つは、公立夜間中学ならびに自主夜間中学が大事にしている学びとは何なのか、あるたいは大事にしている学びをどのように実践しようとしているかについて幅広く学びたかった。もう1つは、公立夜間中学も設置されておらず、自主夜間中学という名称で広く活動している団体も極めてわずかと思われる栃木県で、公立夜間中学の設置や自主夜間中学の活動に対する社会的関心を高めたかった。そして同時に、夜間中学に大学人としてどのようにかかわるべきか考えたかった。

とちぎの地に公立夜間中学校が設置されることを切望している。そして、自主夜間中学をつくる活動を進めたいと考えている。2021年初頭、約1か月前の集いを思い出しながら、「コロナ禍のこんな時こそ、夜間中学の必要性はいよいよ増している」と「地域により開かれたセンターへー多様な学びの場を地域で支えるために」の2つの論考をまとめた(いずれも国際学部附属多文化公共圏センター『年報』2021年3月刊収録)。集いを開催出来たことで書けた文章であり、夜間中学に対する今の自分の想いが特に込められているそれぞれ最後の部分を紹介しておきたい。

学ぶことが出来た人は、学ぶことが出来なかった人に学び直しの場を提供することが出来るのである。公立夜間中学と自主夜間中学がそれぞれの特徴と強みを発揮しながら連携していけば、多様な学びの場は大きく広がっていくだろう。

コロナ禍は、多様な学びの場を奪ってしまう危険性を大いに持っている。コロナ禍に向き合いながら、多様な学びの場が奪われてしまわないように闘っていく必要がある。コロナ禍で苦境に追い込まれている人ほど学びの場が必要なのである。コロナ対策が大変だから他のことには手が回らないと考えるのではなく、こんな状況だからこそ、既存の多様な学びの場を守り発展させるとともに、多様な学びの場を新しく作っていかねばならない。

集いでは、1日目の最初に、福島駅前自主夜間中学の10年の様子を描いたテレビ番組「生徒が主役」(JNNドキュメンタリー ザ・フォーカス)2020年10月5日(月)放送)を鑑賞した。その後、「福島に公立夜間中学をつくる会」の大谷一代さんからご挨拶いただいた。福島駅前自主夜間中学は学校名のない校歌を作っているが、「明日の扉を開けてゆこう 生徒が主役の中学校」(1番)と「出会いの奇跡を噛(か)み締めて みんなでつくる中学校」が特に好きな部分だ。

2021年度は、集いの開催とこの記録集の刊行を確実に次につなげる年度となる。

「公立・自主夜間中学の社会的意義と課題を考える」

12月5日(土) 13時半から17時(司会 加藤佳代)

司会者挨拶 加藤佳代

主催者挨拶 田巻松雄、佐々木一隆

○「生徒が主役」(「福島駅前自主夜間中学の10年」)鑑賞

挨拶 福島に公立夜間中学をつくる会 大谷一代

第一部 公立夜間中学と自主夜間中学

工藤慶一「札幌遠友塾の30年とこれからー2022年4月札幌市立夜間中学校の開校を前にして」

駒井洋「多様な学びと夜間中学」

コメンテーター 石川朝子・小波津ホセ

第二部 公立夜間中学の今

桜井克典「尼崎市成良中学校琴城分校」

大西深雪「東京都葛飾区双葉中学校夜間学級」

コメンテーター 佐々木優香・三浦美恵子

第三部 懇談会 17時から18時

12月6日(日) 9時から12時(司会 稲川星)

司会者挨拶 稲川星

○田巻松雄「大学が自主夜間中学を作るということ」

○「自主夜間中学が目指す学びとは？」

中澤八榮、大谷一代、澤井留里、城之内庸仁

コメンテーター 横溝環・鄭安君

○学生が考える自主夜間中学

国際学部

黒坂愛、高松美里、服部花菜

地域創生科学研究科

李梅

コメンテーター 夜間中学関係者を中心に

○全体講評 工藤慶一、駒井洋

○主催者挨拶 田巻松雄、丁貴連

<https://us02web.zoom.us/j/88019187519?pwd=cmhVYXZ3N2VYbld1K2F3QnpXWTRndz09>
ミーティングID: 880 1918 7519 パスコード: 767839